

進崩し。捷擒たるものとこそ後へ紫田が軍勢を入れて、西陽一時に接記
するや名。方僅へ城を一個も残さず。渴城の流域をかぎりに水も源ふ
ぞうりあす。大將秀えちも一方敗北後、逃き出んとあくまで依久前
盛政蹟逐累ひ。唯一段に斬く爲ひ。務家遍胸をや既小城中へ投來
る。我約期たる城攻を羽柴が奇計に攻められ。最精誠秀吉を
むろひいふを其謀計は。我にハ若ぬと咎めたり。筑前も荒井
と笑ひ。謀計ハ唯秘密をりそ。うとをあきを。若すわざび耶。我ふも
場ふ粉骨をもす。互ふ君のくああるよりの底足下にもり。我ふも
あき。遂く歎惜を留もこそ。是誠信の忠義あれ。中ふも足下の兵
士達。齊力我擣して西門を破。城將圓光寺を殿まつて。又當城
頃に兵去せす。是食足下に我ゆあらば。そのゆど争もんとて謀
呈一りのとあがさる。單に征伐の事代のと簡要とて。下るこれ
ぞ。歎意にしきよ。且又當城兵云のす。我。諸方の一揆案に納せん
と。あ。燒起玉と。愈しきるに。然。姫姫の紫田も秀吉が辞讓の詞ふ
堪入く。暮びひみそり。御手。則地羽柴が若ちに信せ。猪勢ふ令て
城にふ。火代放さとく。燒起されば。案に遠をて。諸方の歎兵。松津
兵機の火の薬に驚け。過半ハ城を聞退て。四方八隅へ放走し。轟鑿
る凶流一個もあす。然かど小惟任日向守。猪勢修良入道。山修源左右
諸の海へ。河野を出て。暮地ふれ。本芽。大寺へ推進せし。猛威をふ
も。盛あり。諸も大寺の城中にハ。和田の本覚寺。石田の西光寺。二ふ
人ほく凝ちぐる。河野の新城兵と所持をあづ。防戦の准備の
あたるかど。また河野。松津にの大の兵をもく。方僅へいそぞり構へて